

当署の安全活動について

戴原署・庶務課厚生係○木 村 泉
永 島 武 男
寺 島 勉

要 旨

当署では災害の発生が多く、そのため昭和58年4月から昭和63年7月まで安全管理強化営林署等に指定された。

こうした状況の中で災害を減少させた最終の目標であるゼロ災害に向けて奮を挙げて取組んでいるが、安全活動に「何か欠けているのではないか」、「取組みが悪いのではないか」また「今後の安全活動に何か指針となるものはないか」と考え、過去の災害を分析した結果、安全意識と緊張感の持続に重点をおいた安全活動を推進している。

は じ め に

労働災害防止、ゼロ災害達成には署を挙げて努力し安全活動に取組んでいても、毎年災害が発生しているのが実態である。

当署の災害発生件数は、昭和52年度の17件を最高に昭和54年度までは局平均を大中に上廻る年が多かったが昭和55年度7件、昭和56年度3件、昭和57年度3件と昭和55年度以降逐次、減少傾向にあった中で昭和57年度は死亡災害という絶対に出してはならない災害が発生し、その反省があつてか昭和58年度は1件にとどまったもの、昭和59年度6件、昭和60年度6件と多発をしている。

そのため、昭和58年4月から昭和63年7月まで「安全管理強化営林署等」に指定され、労働災害防止について、指定事項も含め署を挙げて取組んでいたところであるが、災害がなかなか減少をしないということは当署の安全活動に「何か欠けているのではないか」、「取組みが悪いのではないか」また「これからの安全活動に何か指針となるものはないか」と考え、過去の災害を分析する中から少しでも災害を減少させ、最終の目標であるゼロ災害の達成に向け現在進めている当署の安全活動を発表する。

I 分析以前の通常取組んでいた安全活動

安全管理計画、安全管理組織による活動、ミーティング、安全点検、安全懇談会、安全教育指導、他署等の災害事例の分析反省、営林局からの指導の徹底、当署で決めた「守るべきこと、絶対やってはならないこと」の励行、指差呼唱の励行を中心として、ひと通り活動していたにもかかわらず、昭和58年度6件、昭和60年度は年半ばで6件の災害が発生してしまった。

そのため今までの安全活動を反省するとともに今後の活動に何か指針となるものはないかと考え、過去10年間の災害を分析した。

II 過去10年間の災害分析結果

1. 各年度の災害発生件数は災害の多かった年、重大災害のあった翌年度は少なく、逆に災害の少

につながっており、また安全管理の参考になっている。

112)の安全管理者による早朝一声安全指導は文書による指示、指導の外に現場での指導とともに直接作業者に指導、教育する機会が多くなり安全作業に対する指導者と作業者の一体感を強化している。

お わ り に

このような安全活動が効果として表われたかどうかは別にしても昭和60年10月15日から昭和61年9月24日まで約1年間、無災害を続けることができたが、昭和61年度は9月25日、10月22日、11月28日と3件の災害が発生し安全活動のむづかしさを痛感しているところであるが、今後も安全意識と緊張感の持続に重点を置いた安全活動に取り組んで行きたいと考えている。